

小田原史談

第18号

発行所 小田原史談会
小田原市幸一丁目
郷土文化館内

新春所感

小田原史談会会長 鈴木十郎

昭和三十八年の新春を迎え、心から御祝詞を申し上げます。

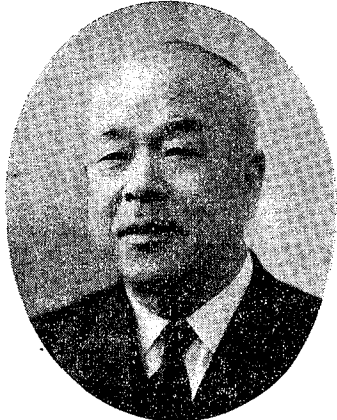
小田原史談会は結成以來早くも八年目の春を迎えたのでありますが、郷土のあらゆる面にわたる調査研究に、有形無形の文化財の発掘保存に、あるいはまた市民の郷土愛の昂揚に努力し

幾多の事業を行なってきました。隆盛に赴きつつあることは、会員各位が郷土愛に燃え、一致協力本会の事業を推進せられた賜であること喜びに堪えません。

このように本市が長い歴史の中から新しく近代都市として生れ変わらんとする時でありますだけにその過去現在を正しく把握することは最も必要なことであり、この意味において

今や本市は人口十三万を越し、遂年すばらしい躍進を遂げつつありますが、政治、経済、交通、文化等すべての

面において市内外の事情は急速に変転しつつあり、今年こそ飛躍



そ飛躍

史談会の使命はいよいよその重要性を加え来ったと言わなくてはなりません。会員各位におかれてはそれぞれ立場において研究を進められ、小田原の真の姿を明らかにされるようつとめられんことを希望する次第であります。

元旦の御挨拶

桜井史談会 井上英一

昭和三十八年の新春を寿ぐにあたり我が郷土の誇りを述べさせて頂きます。

あゝなつかしの故郷、そして偉大なる郷土よ。君はこの世は誇り得る三つの美点を持って居るのではないかと正直に言ってみれば、無口では誰も気づかない勇氣をふるって、そして声高らかに、郷土のほこりを

「富士の眺め」「二宮尊徳」「湧き出づる水」この三つこそ、天下一の折紙をつけられる可きだろうあの箱根連山を背景に遙か彼方にそびえる霊峰富士の眺め、夕日が西山に沈む頃一段と美しい花を咲かせてくれるのだ。

其の時、右手のすそには獄の越(猪鼻嶽)が七分三分にデンとおさまる眺めの美事さまはまさに一幅の芸術画を見るが如し。

世の人々よ、来り称えよと詩人は書くに違いない

又、コンコンと湧き出づる冷水こそ、天与の恩恵と言わなければなるまい。

無村はこう言い現わした。「わがやどに、いかに引くべき 清き水かな」これは昭和四年四月一日のこと

小田急線栢山駅が新設された落成式の当日誰やらの寄贈によって会場に貼られた一枚の祝詞であった。

井上英一

我々は尊徳を守護神と啓し子々孫々に至るまで其の徳を偲びつつ後につづいて行くべきではありませんか。

金次郎が十六才頃の夏のある日、近所の友達と五、六人連れだつて富士登山をした時の話、頂上の井戸、金明水を見て友達の一人は言う

「金さん、こんな高い処で水が出るのは全く不思議じやないか？」

金次郎曰く「何も不思議な事はないよAちゃん、お前の頭のとっぺんえ針を打ち込んでみる血がふき出すだろう。それと同じ理屈だよ」

Aさんは判ったような判らない様な話なので帰宅後よく物の原理を教えてもらって初めて納得したと言っているのである。

一、カルシウム

二、ケイ酸

三、アルカリ度

四、マグネシウム

五、その他のイオン

六、硫酸

七、酸素

八、酸素

九、酸素

十、酸素

十一、酸素

十二、酸素

私の歴史観

飯泉史談会 浅見靈風

名所旧蹟に古人を偲び史書に往昔を感得して比の種の歴史書を愛読する者、夥しとしないことは誠に意を強うする。歴史を愛好する心は道徳と一致するもの、即ち古人を識ることは己を知ることに出發するからである。

己を知るには両親を知らねばならない。そして我が環境を知悉し妻子を考え、遡って先祖を探究することは愛史者の常道である。その究極は祖先崇敬が生じ、父母に孝、兄弟に友、夫婦の相和、朋友に信の道が開けるは勿論、社会人として果すべき義務をも完遂すべき人道に到達することになる。之れ道徳に通ずる道に外ならない。

私は常に思う。有史以来偉人哲人、英雄豪傑、文人智者の数は幾干とあるが、如何なる人爲と雖も食すれば排し、夜は寝ね、長ずれば婚し交って子を育てること、我々と何等の相違もないと思う。この共通点からあらゆる狩野親光の娘か、

寝正月

木村博

土肥実平の娘か？それと曾我祐信の母が河津祐家の娘か、孫娘か？此の相違は物語理解上重要な問題である。中野先生の曾我物語と石野瑛先生の曾我氏調査にこの喰違ひがあり、他日中野先生に此点に就いて御一筆を願いたいと思つてゐる。

私の歴史観から中野先生に、続いて「小田原北条五代間の姻譜」を明示しつつ「小田原城盛衰記」意執筆を懇願して止みません。世は戦国時代、群雄各地に割拠の時、我が範因孤張と、天下統一の夢に酔いしれてその権謀術策の爲に、我が娘、我が妻迄も人権無視して朝に結縁し夕に離婚の女性悲劇は取筆に暇なし。此の戦国時代女性の犠牲に於いての北条五代の弱肉強食榮枯盛衰こそ、郷土愛史家の最も知りたい所、斯くてこそ真稜にした早雲——氏直の小田原城史は現代人の肌身に密着するものと確信して止まない。

本誌上から重ねてお願い致します。「北条五代姻族記」の御執筆下さらんことを。

寝正月という言葉がある念の爲に「広辞苑」によって確かめると、元日または新年の休みにどこにも行かず寝て過ごすこと。また病気で寝ている場合も縁喜からいふとある。

正月ともなれば、お屠蘇お神酒ではすみがついて、年始廻りをすれば、まあ一杯ということになる。或いは上夜の所を廻って歩く。部下がやってくれば、ちょっとはいい所も見せたかろう。女房が洗ひ顔をするのもきかず「おーい、もう一本」でなことになる。次から次へと部下がやってくるので女房はふくれつ面。折角のお正月が台無しになったと云つて、子供達からも不平が出る。

そこで予め大晦日頃に家をとび出して、家族水入りの温泉行きとのお陰で温頃の風潮である。お陰で温泉場は、こういうお客で満員。従つてお値段も特別料金とやらをとられる訳だが、それでも家に居るよりも安上りだという人もある。宿

正宗十哲

板橋史談会 橋本整之助

の高いだけがコチンときても、姫始めもあって、普段に似合わぬ旦那様のサービス振りに女房は御機嫌。この日ばかりは台所へ立たずともよく、大名の奥方みたいな気持。

正月三ヶ日は、女は炊事をしないのが習わしであつた。今でも地方へゆけば年男たる主人が行っている物堅い家もあるだろう。さて話を本題に戻すと、寝正月ということも、本来は忌みつつしむ生活が、遠く原因しているのではないかと私は考へているのである。山形では「餅くつて寝ないのは馬鹿」という諺があるが、寝ていては忌み籠ることにほならぬとしても、余り遊び歩くのは正月の本旨に反するものであつた。混む電車、混む映画館、混む神(仏)参りは、全く馬鹿気ている。ゆっくると寝正月をきめ込みたいものである。幸い本年は卯年だそうで、兎と亀の昔から、兎は寝るのが得意だから、誠に寝正月には、お説え向きというべきではないだろうか。

明けまして御目出度うございませう。戦後は年と共に美術工芸品を愛する方が非常に多くなりました。私は刀剣に関する方を扱つておりますが世間では刀即正宗とする程の名作であつて正宗の門弟中特に、郷義弘・長谷部重・志津三郎兼代・備前兼光・呉服郷則重・来国次・筑州左・備前長義・関金重石州直綱の十人を後世孔子の十哲に因んで正宗十哲と申されるが、年頭に当り最上位の義弘の作品に付けられた郷と江について一言述べさせていただきます。越中の善弘又はその作品を呼ぶのに郷を以てすることは通例であるが、出身の地名又は居住の地名を以て人に冠し或はそれを人に代用させる事は今日も普通に行われている。義弘は越中国松倉郷(富山県下新川郡松倉村)の出身で当時の人は「松倉郷の義弘」又は「松倉郷」と呼んだが何時か松倉を略して郷だけを呼んだ。かような略称は親しい間柄

によく見受けられることであつて想うに鎌倉で修業中同門の人達からかように呼ばれたのが郷の起りであらう。江に付ては彼の名作に付した略称に富田郷・稲葉江等があるが江の字は美は郷の字の草書であつたのが江と極似せるため何時か郷と代用字して用いられる様になつた。本阿弥光徳極めの上記稲葉江には指裏に天正十三年十二月日本弥磨上之光徳花押とあつて江の字を金象嵌してあるので此の転用法がかなり古い事がわかる。

昭和癸卯辰臘草原
恭賦 一所若杉重雄
東風習々送「春光」。
嫩色如「茵敷」緑芒。
淡霧輕烟渺無際。
連邱滿野共「天長」。

十五夜
初日迎う争らな
庭に足らいいけり

二三つの願

飯泉山房 八十一老比丘

ことしは兔の干支、二兔を
追うものは一兔を得ずとい
いますが、二兔どころでな
く三つのお願いなのです。

①、小田原市の鐘樓に梵鐘
を

②、小田原城址お濠の隅矢
倉を高く上げること

③、飯泉観音の復興を

①は幸にも市仏教連合団の
發願が叶いまして有難く弱
かに感謝いたしております
天守閣の出現に伴って隅矢
倉だけは元の高さにと、②
の願いで、一つ叶えば二つ
三つ四つ五つ六かしの世や
と言われます。四つ五つの
というのではなく三つの願
いなのであります。

二兔を追わないとすれば、
その一兔としての願いに飯
泉観音の復興の願を特筆さ
せて頂きます。小田原城鬼
門鎮護の伽藍、小田原領主
大森寄柄庵公以来の飯泉山
勝福密寺の金堂即ち世にい
う飯泉観音堂は関東大地震
に、今次の戦禍に奇しくも
難を免かれ元祿十六年の再
興を今日に保有して将きに
最早や放置してはおけない
神奈川県指定重要文化財た

るこの建造物。これは解体
復元しなければならぬ目
下の急務に直面いたしてお
ります。年頭に「三つの願
ります。」

「としての一兔を脱兔の勢
いにて叶へられますように
とお願いたしますのであ
ります。」

小田原市郷土史研究への一動向

杉山康輔

小田原市民は一般に郷土の
史実に深い関心と造詣をも
っている。殊に鎌倉初期、
室町末期の戦国史、江戸時
代部史となると数多くの事
実を知って居り驚くべき造
詣の深さに接することがあ
る。これは小田原の人々が
永い伝統と鎖國的因襲の裡
に育って来ているからでも
ある。けれども斯うした
人々が明治以後の發達史、
特に經濟發達史に関しては
余りにも無関心であり正し
い研究を怠っているのでは
あるまいか、私は憶う、一
体歴史とは何か、一口には
謂へないが強いて答へるな
ら『What man has done?』
人類はこれまで何をし來
たか歴史研究の目的がザイ
ンかゾルレンか、即ち実在
か価値か何れかと言うなら
ば恐らく両方であろう、け
れど何れも現存する人間生
活の文化向上にラサスされ

初凧や海鵜の

磯波おさめ

杉山洋夢

癸卯正月希平和
昔より月に兔の
餅と杵

弥がてはつかん

米蘇手をとる

清水専吉郎

お待ちかねの連載ものは、
次号から……(編集部)

謹賀新年

きそば 寿庵 小田原駅前 電話二八六二番	写真用品なんでも揃う カメラの 光輝堂 小田原駅前 電話五九六五番	寝具の店 田屋 小田原銀座二 電話三七八八番	甘露梅・月の衣 正栄堂菓子舗 小田原駅前 電話五三一二番	高級陶器の店 株式 江島屋陶舗 小田原銀座通り 電話五四二七番	あなたの洋品店 はふや 小田原幸町 電話三三〇七番	晝表・日用品・問屋 茶利商店 小田原多古二五 電話二三四一番	建築金物・家庭金物 株式 星崎仲吉商店 小田原多古四一二 電話二七一八番	有限 山一商店 小田原市井細田四二八 電話三五五三番	プラスチック成型加工 東海化成株式会社 取締役社長 滝本友信 電話小田原五九二七番	松坂屋製菓本舗 小田原市十字二 電話五二七六番	松風・千代菊・甘露梅 集栄堂本店 電話二二七六番	化粧品・おしゃれ彩華 松屋 小田原錦通り 電話三三三六番	純良医薬品 株式 オタワラ薬局 錦通り電三、〇四八番	御料理・御弁当・仕出し 株式 東華軒 小田原駅前 電話五〇六一番	小田原信用金庫	趣味の陶器 江島屋 小田原箱根口 電話六六〇二番	写真 イガラシ 小田原市幸三 電話二五三四番	平野商会 野久雄 小田原市十字三 電話二四四九番	印刷物は 弘英印刷へ 小田原市井細田八一 電話四一〇八番	伊豆箱根鉄道株式会社 大雄山線 運営事務所	小田原報徳 自動車株式会社 太陽自動車 株式会社 代表者 曾我津之助	明るい生活・楽しい読書 八小堂 小田原駅前 T五三八八九	株式会社 小田原百貨店 社長 神戸英次郎
----------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------------------	---------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------	------------------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------

船志澤